

研究区分	学部研究推進
------	--------

研 究 テーマ	海外授業及び海外フィールド・ワークの実践（継続）				
研究組織	代 表 者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	小針 進
	研究分担者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	奈倉 京子
		所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	米野 みちよ
		所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	堀内 賢志
	発 表 者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	小針 進

講演題目
ハイブリッドな国際交流を目指した海外授業の意義
研究の目的、成果及び今後の展望
【目的】国際関係学部のアドミッション・ポリシーを具現するための、旧アジアコース時代から取り組んできた事業である。「国際社会で活躍できる人材の育成を目指す」や「21 世紀型地球市民としての優れた人材の育成を目指す」といった目標達成を目指している。正式な科目としては、実践的な海外授業を実施する科目が設定されていないなかで、本プログラムでの実践は貴重なものとなっている。新鮮な国際感覚の獲得、直に触れる国際関係、異文化理解、多文化共生体験、危機管理・対応、留学・海外就職先の選択、習得言語の実践等において、海外授業の必要性から継続的に実施してきたのが、このプロジェクトである。海外協定校等との合同授業、各自のテーマに即したフィールド・ワークを学生と共に行うことで、これらを養うことを目的としてきた。 【成果】本プロジェクトはコロナ禍の 20・21・22 年度はオンラインによって、そして、23 年からは学生たちと共に実際に海外へ出向く形式と国内で海外学生を迎える形式で対面と、オンラインの併用へと移行し、24 年度も同様であった。ハイブリッドによる各教員別の取り組みは次の通りであった。 小針：韓国外国語大学融合日本地域学部李昌玖ゼミとの対面による日韓学生合同セミナー、静岡での日中合同セミナー、奈倉：台北大学を訪問し来年度以降の学生交流を具体化、東北 3 省主要大学との対面による静岡での日中学生合同セミナー、米野：フィリピン大学との対面による合同授業と学生による現地調査（高齢者施設訪問等）、浜松でのフィリピン語スピーチコンテストに参加、堀内：日露水産物貿易に携わる実務者による特別講義、県内でのロシア関係史跡調査（3 月予定）など 韓国とフィリピンとの交流においては、コロナ以前とほぼ戻っているといつてよい。学生らの反応からは、直接的な海外渡航による対面授業の教育的効果は大きかったと判断できる。一方で、中国とロシアへの渡航は不可能というわけではないが、昨今の国際情勢（日中関係の不安定さ、ロシアのウクライナ侵攻など）から、学生との渡航は控えざるを得ない。それでも、中国人学生を本学へ招いての日中合同ゼミ開催は日中間の相互理解につながり、また台北大学との関係構築は、台湾という新たな座標軸の開拓による、明るい展望の可能性をみせるものとなった。 【今後の展望】前年度も指摘したが、アドミッション・ポリシーを具現化させるうえで、次年度以降も、引き続き海外渡航による合同授業、海外からの受け入れによる合同ゼミなどを実施して、学生たちの国際感覚を養成していくべきである。とくに、中国との交流においては、24 年 11 月に中国政府が日本一般旅券保持者のビザ免除措置を適用する旨発表したことが、追い風になるかもしれない。